

R5.11.1 第 1 回岩手中部保健医療圏地域医療連携推進会議病院部会・市町部会
(事務局調整)

議題 (2) 地域移行構想

「エ 紹介受診重点医療機関の指定」について

【 要 旨 】

(北上済生会病院)

- 医療資源重点活用外来基準達成に向け、外来化学療法の実施及び強化する。
- 取組みとしては、「整形外科の関節リウマチ」「泌尿器科の膀胱がん」「外科の乳がん」を対象に外来化学療法を受け入れるということで、基本的には中部病院から受入れ、こちらで実施する取り組みを増やす。
- これにより、現状、紹介受診重点外来の患者延べ数 1,216 人を 2,352 人に伸ばす。
- 現在、クリニカルパスの作成及び照会促進のため、医療機関向けの案内に向けた準備を行っている。
- 後方受入先として、中部病院との調整も、これから進めて行く段取りになっている。

(吉田委員)

説明いただいた関節リウマチと膀胱がん、乳がんの主にこの 3 つで 1,000 人以上だと、数的に厳しそうに思われるが、その点についてはいかがか。

(北上済生会病院)

- 整形の関節リウマチについては今、重点的に取り組んでいる。
- 膀胱がんについては、新規で赴任された泌尿器科の先生がかなり積極的に治療体制を図っている。
- 外科の乳がんは、中部病院の協力のもと、何とか達成に持っていきたい。

(吉田委員)

当院からの連携出来る数が 1,000 になるかどうか、手元にしっかり検討した材料が無いため何とも言えないが、協力させていただくことには異論ありません。

この、数の問題だけだと思います。

(座長)

2025 年に向けては 2,352 人程度を目指すということだが、今年度はどの程度までその件数がいきそうか。

(北上済生会病院)

- 本年度は現在、外科の女医さんがご懐妊されたことから、乳がんの方の伸びがあまり期待できない。
- このため、リウマチ、膀胱がんで上積みできるかなと思っているが大幅な増加は厳しい。

(座長)

中部病院の吉田院長先生から、件数の件について精査が必要なご意見をいただいたと受け止めたが、済生会病院ともしこの具体的な目標等について調整するとなると難しいか。

(吉田委員)

具体的な数値を確認してみないと。実際の数を少し検証させていただいてご相談ということか。

(北上済生会病院)

- すべてを中部病院から受け入れるということでは無く、周辺含めて大学からの受け入れ等を含めての数と考えている。
- 中部病院からのもので全て埋めるという具合に考えているものではない。

(吉田委員)

そうであれば、想定している施設から何件位ずつ、といった見込みの数が出てくれば説得力が出てくると思われる。

(座長)

今の御意見について、各施設等からの見込みの数字といったものは資料としてはいかがか。

(北上済生会病院)

- この場で直ぐにというのは難しいので、お時間をいただきたい。

(座長)

この場では厳しいと思われるが、資料として若干、やはり補足したほうがよいのではないかと思われるが、済生会病院さんいかがか。

(北上済生会病院)

- 乳がんなどであれば、一人一医での化学療法という形になるため、数人でかなりの数が稼げるというところはあるかと考えている。
- 関節リウマチについても、月一度程度の化学療法が基本となってくるため、年間通して12回、一人が12回という形になり、数としては延べ数であるため、達成はそんなに難しいものではないかと思っている。

(座長)

そうますと、別途また補足をして、ご説明する機会をいただくというふうに理解をしましたがよろしいか。

(北上済生会病院)

はい。

(座長/柳原保健所長)

それでは、今日いただいたご意見を踏まえて、より具体的な数値を盛り込んだ説明を、次回、お願いするということで特に異論は無いようですので、次回、再度、ご説明をいただくということにさせていただきたいと思います。